



## プロジェクト型共同研究の推進のために

### 要点

- 研究マネジメントの仕組み
- マネジメント人材の育成・確保を含めた組織的支援の在り方
- 研究者の育成やマッチング
- 研究者間の相互理解の仕組み
- 評価や成果発信の在り方



### 人文知共創センターの取り組み

#### 人文知共創センター

学術知共創プログラム「人間・社会・自然の来歴と未来：「人新世」における人間性の根本を問う」  
Anthropocenic Actors and Agency in Humanity, Society, and Natureを推進する研究拠点として発足



## 人文知共創センターの取り組み

① 本プロジェクトチームができるまで

② 研究班の構成と班の連携

③ 人文知共創センターの構成

④ 研究班の活動／班の連携

⑤ 評価や成果発信の在り方

**本プロジェクトチームができるまで**

名古屋大学総長裁量経費プロジェクト (2005、2007、2009)

中村 大平英

科研 (萌芽) (2006-7)



中村  
立花  
大平英

名古屋大学学術振興基金 (2010)

フロイトの失語論翻訳 (2009)



中村 立木

中村

研究成果公開促進費 (2011)

科研基盤 (C) (2011-13年度)

中村 大平英

科研(萌芽) (2015-17年度)

中村 大平英

科研基盤 (B) (2016-18年度)

中村 大平英 大平徹 中村 池野 大平英

研究成果公開促進費 (2019)

科研基盤：特設 (B) (2019-21年度)

中村 池野 幸平 幸平

科研基盤 (B) (2019-22年度)

中村 大平英 大平徹

学術知共創プログラム (2022-27年度)

中村  
平田 金 田村 鈴木 大平徹 岩崎  
伊東 森 立花 高橋 南谷 和泉  
池田 長井 鳥山 ポーヴィウ 立木  
坂口 武田 池野 山本 大平英

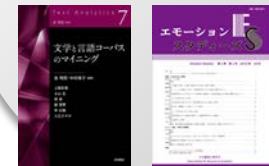
名古屋大学文学研究科シンポジウム (2014)

中村 中村 大平英

研究成果公開促進費 (2015)

先導的人社研 (2017-22年度)

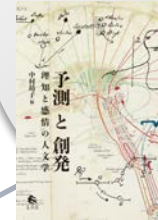
中村 平田 伊東 大平英  
高橋 長井 鈴木 山本



大平英  
伊東  
中村

シン・人文学研究会 (2021)

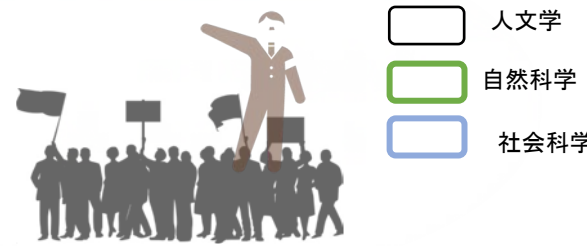
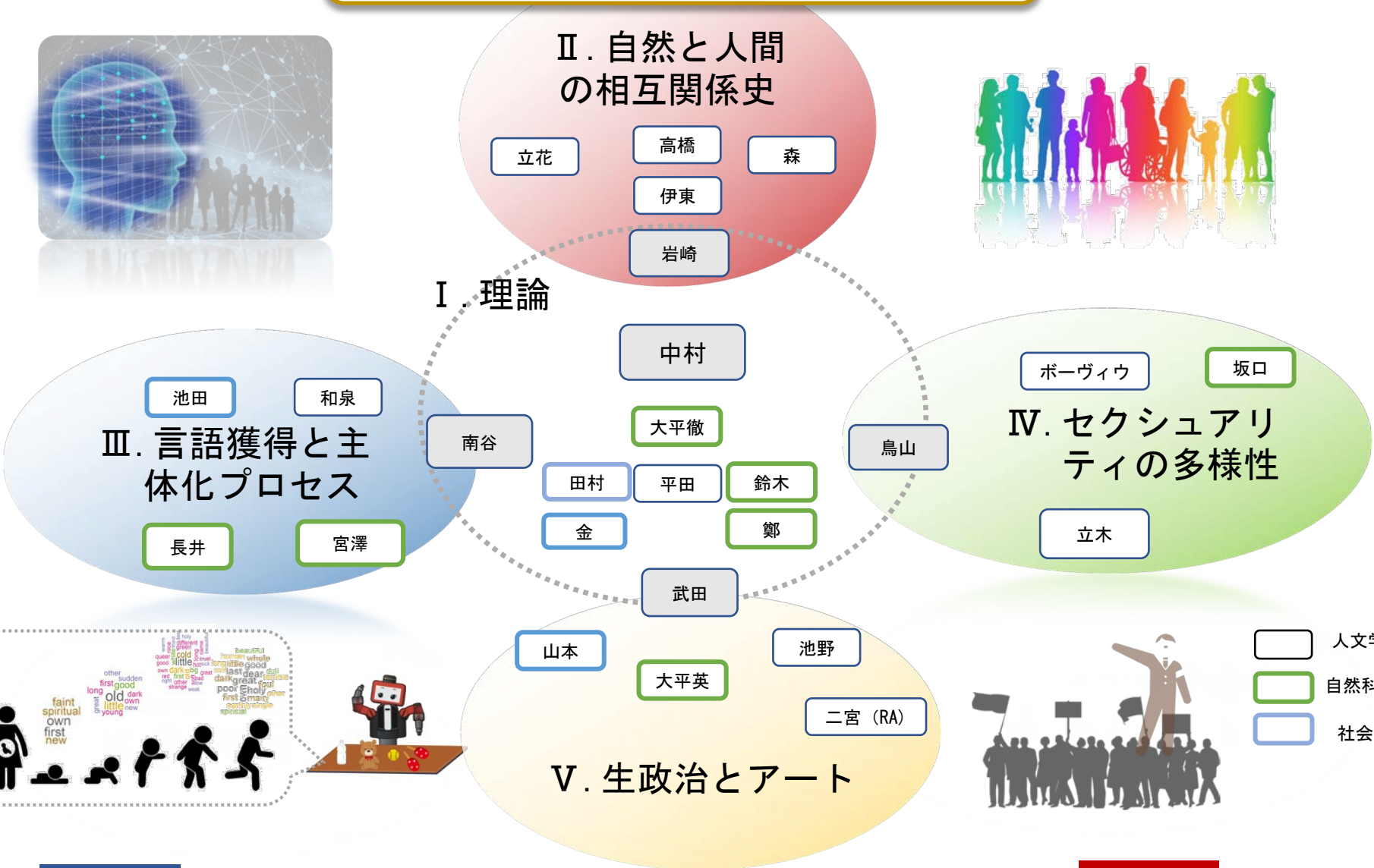
伊東 中村 岩崎  
南谷 鳥山 大平英



中村 平田 伊東  
池野 岩崎 鳥山  
大平徹 山本 大平英

名古屋大学学術図書出版助成 (2022)

# 学術知共創プログラム採択プロジェクト 研究班の構成と班の連携



- 人文学
- 自然科学
- 社会科学

## 国内連携機関



## 国外連携機関

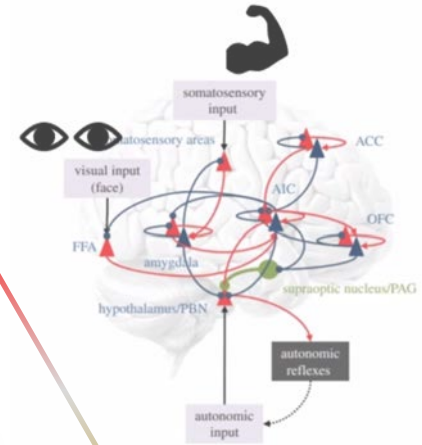
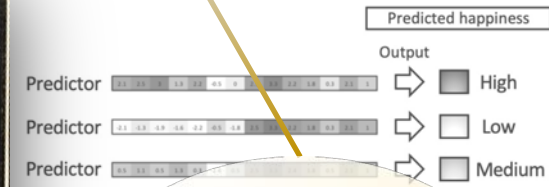
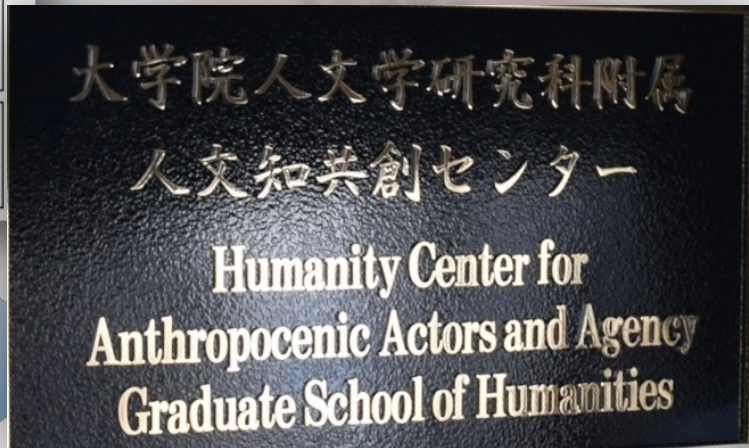


# 人文学が諸科学を先導する学術知の共創

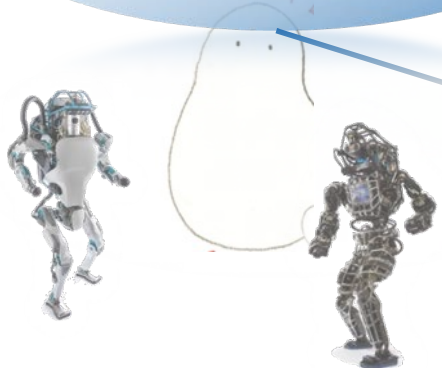
名大+12協力機関

## 〈人文学+データマイニング〉

思想史  
哲学  
文学  
歴史学  
美学美術史  
美学・芸術学  
精神分析  
文化情報学

応用数学  
情報工学  
認知科学  
記号創発ロボティクス



認知神経科学  
臨床心理情報学  
発達心理学



行動生物学  
都市論  
政治学



# 人文知共創センターの構成

- 基幹教員 中村靖子（人文学研究科：ドイツ文学）
- 基幹教員 岩崎陽一（人文学研究科：インド哲学）
- 基幹教員 鄭 弯弯（人文学研究科：文化情報学）（センター専属特任助教）
- 協力教員 大平英樹（情報学研究科：心理学）
- 協力教員 大平徹（多元数理科学研究科：応用数学）
- 協力教員 田村哲樹（法学研究科：政治学）
- 協力教員 鈴木麗瑩（情報科学研究科：複雑系科学）
- 共同研究員 南谷奉良（京都大学：英語圏文学）
- 共同研究員 鳥山定嗣（京都大学：フランス文学）
- 共同研究員 武田宙也（京都大学：美学・芸術学）
- 共同研究員 平田周（南山大学：フランス社会思想史）
- 共同研究員 立花幸司（千葉大学：古代ギリシア哲学・倫理学）
- 共同研究員 伊東剛史（東京外国語大学：感情史）
- 共同研究員 森元斎（長崎大学：アナキズム研究）
- 共同研究員 高橋英之（大阪大学：認知科学・ヒューマンエージェントインタラクション）
- 共同研究員 和泉悠（南山大学：言語哲学）
- 共同研究員 池田慎之介（金沢大学：発達心理学）
- 共同研究員 長井隆行（大阪大学：記号創発ロボティクス）
- 共同研究員 ボーヴィウ マリー（明治学院大学：日仏独アフォーリズム研究）
- 共同研究員 立木康介（京都大学：精神分析）
- 共同研究員 坂口菊恵（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構：内分泌行動学）
- 共同研究員 池野絢子（青山学院大学：イタリア現代美術）
- 国内連携機関 共同研究員 山本哲也（徳島大学：臨床心理情報学）

年齢構成  
(2022年10月時点)

20代	1名
30代	5名
40代	9名
50代	4名
60代	1名

責任機関+12協力機関

採択後参加

国内連携機関

国外連携機関



## 班の定期的活動

・各班の班別会議 各年度2回

・全体集会 各年度2回  
キックオフ・ミーティング  
年度末集会  
年次集会

・グループリーダー・ミーティング 随時開催



## 班の連携

企画の立ち上げ → 連絡板で周知 → 参加者募集 → 実行

- ・ **理論班拡張会議** (2022年11月19日)  
参加者：理論班、他メンバー

- ・ **「ロボットと感情」ワークショップ** (2022年12月20日)  
参加者：第1班・第2班・第3班・第5班メンバー、院生、関連する研究者

- ・ **第5班企画公開セミナー「「人新世」におけるアート** (2023年2月18日)  
参加者：第1班・第5班メンバー、一般参加者

- ・ **第29回動物と人間の関係学会シンポジウム「どこまでが動物なのかー人文学から考える」** 登壇者：第2班・第3班・第5班メンバー

- ・ **公開ワークショップ** (2023年3月21日) 「21世紀における映画と社会」  
参加者：第1班・第2班メンバー、一般参加者

- ・ **第4班ワークショップ** 「17～21世紀のフランス文学におけるジェンダーと性」 (2023年5月26日)  
参加者：第4班、関連する研究者

- ・ **第3班企画テキストマイニング講習会** (2023年5月31日)  
参加者：第1班・第3班・第4班メンバー、RA、院生

- ・ 『**悪口ってなんだろう？**』 (和泉悠著) **合評会** (2023年8月16日)  
参加者：第1班・第3班・第4班・第5班メンバー、院生、関連する研究者

- ・ **第3班特別会議「ロボットと言語」** (2023年9月18日)  
参加者：第1班・第3班・第5班メンバー、研究協力者



## 困難な点

- ・ 予算執行手続き、特に出張手続きに関する大学毎のルールの違い  
→ 事務補佐員に業務を集約（人件費はプロジェクト経費。フルタイム雇用は無理）

- ・ 本務校での業務や、各自が持っている別予算の研究との時間配分  
→ 班単位でペース配分をしつつ、進められるところから進め、プロジェクト全体としては常時どこかが活動している状態をつくる

- ・ メンバー全員が母胎とする分野が異なるため、成果発表の場、形式も違う  
→ 共通のテーマを設定できる国際学会でパネル発表、叢書刊行を予定

- ・ 全体集会、各班の会議、また、班の枠を越えた企画で、人文系、社会科学系、自然科学系の研究者が揃って参加している。同じ分野の研究者が重ならないとはつまり、誰もが、自分の分野以外については「初心者」であり、勉強の途上にある。それを踏まえ、いかにして形にしていくかは試行錯誤。

## フォローアップ報告書について

- ・ 採択時の所見を踏まえ、4名（内、1名はセンターに配分された助教ポストに着任した者）が新規に参加しているが、2022年度のフォローアップ報告書では、さらにメンバーを追加するのが望ましいと述べられていた。しかし、申請時より4名増員しており、既に予算に余裕はなく、追加配分がない限り、これ以上のメンバー追加は困難である。そもそも本プロジェクトは、メンバー一人ひとりが各自の分野をカバーすること（より詳しい人を紹介して会に招聘することを含む）を前提にしている。

# 場の育成支援：人工知能×人文知×市民知による新しい知の習得と実践

終わらない読書会—22世紀の人文学に向けて—

共催：JSPS課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業学術知共創プログラム

「人間・社会・自然の来歴と未来：「人新世」における人間性の根本を問う」(JPJS00122674991)

## 【読書会概要】

- ・2023年2月より隔月開催
- ・参加費無料・隔月開催・公開型オンライン読書会 (@Zoom)
- ・運営者：南谷奉良、小林広直、平繁佳織

## 【読書会構成】

### PART 1 AIと読む文学テキスト

AIによるテキスト生成や画像生成AIツール、テキストマイニングについての初学者向け技術講座

### PART 2 人間が読む文学テキスト

登壇講師による「ヒト・動物・モノ・機械・自然」を主題にした文学作品の読解

### PART 3 市民が読む文学テキスト

参加者による質疑とオープンディスカッション



#### 【登壇講師一覧】

- ・森田俊吾 (奈良女子大学・専任講師)
- ・伊藤琢磨 (ソルボンヌ・ヌーヴェル大学博士課程)
- ・濱野ちひろ (大阪公立大学 UCRC 研究員/ノンフィクション作家) 人類学研究
- ・宮澤和貴 (大阪大学 大学院基礎工学研究科 助教) 知能ロボティクス
- ・肖軼群 (京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程) 英文学研究
- ・八木悠介 (ロレーヌ大学博士後期課程・東京都立大学研究員) フランス文学研究
- ・西村真悟 (京都大学大学院文学研究科博士後期課程) フランス文学研究
- ・伊藤琢麻 (ソルボンヌ・ヌーヴェル大学博士課程) フランス文学研究
- ・佐次田哲 (社会人・システムエンジニア)



## 人文知共創センターの今後の企画

- ・ **ローマ国際会議**（2024年3月14-15日）（ローマ第二大学）  
（中村、武田、池野、山本、大平（英）、鄭、二宮（RA）、他研究協力者）
- ・ **エスポジト氏研究訪問**（2024年3月18日）（ナポリ哲学研究所）  
（中村、武田、池野、山本、大平（英）、二宮（RA）、他研究協力者）
- ・ **東西哲学会議パネル**（2024年4月13-31日）（ハワイ大学）  
（中村、岩崎、立花、和泉、大平（英））
- ・ **ローマ哲学会議パネル**（2024年8月）決定（ローマ・サピエンツァ大学）  
（岩崎、立花、和泉、連携研究者）

According to the extensive literature on the subject, humanity has entered the age of Anthropocene, so called because homo sapiens has demonstrated that it can act as a geological force capable of profoundly changing the face of the planet. Virtually, today there is no place or phenomenon on earth that does not leave traces, directly or indirectly, of the pervasive human transformative action. The new era we are living is changing the deep structure of our planet to a formerly unknown degree. Thus, the catastrophic consequences of the human impact on life on this planet command a fundamental change of our attitude.

From this viewpoint, how to define the place of humans in natural world? What is the meaning of nature? How we are to be regarded in relation to the other natural beings? How to respond to problems facing us, now and in the future, such as environmental degradation, climate changes, overpopulation and overconsumption, destruction of natural resources, coexistence among different natural beings and different cultures? How can technology, humanities and the arts address this situation? Is it possible to imagine a no longer human-based future state of our planet?

These are just some questions the international conference tries to answer, along with some reflections coming from different fields of knowledge such as philosophy, arts, science, technology.

**Scientific Direction**  
Giuseppe Patella  
Yasuko Nakamura


**Scientific Board**  
Paolo D'Angelo, Yasuko Nakamura, Atsushi Okada, Hideki Ohira, Giuseppe Patella, Hironari Takeda

**Coordination**  
Ayako Ikano

**Organization**  
IRCA - International Research Center for Aesthetics and Art Theory  
Dipartimento di Studi Letterari, Filosofici e Storia dell'Arte, Università di Roma Tor Vergata  
Humanity Center for Anthropogenic Actors and Agency, Nagoya University, Japan

**Patronage**  
Japan Foundation - Istituto Giapponese di Cultura, Roma

This conference is supported by JSPS Topic-Setting Program to Advance Cutting-Edge Humanities and Social Sciences Research Grant Number JPJ300122674991 (PI: Yasuko Nakamura) and JSPS19K00662 (PI: Hideki Ohira)




Daiveta Iaria

### Anthropocene Calling

Human, Philosophy, Technology and Arts  
in the Age of Anthropocene

International Conference  
March 14-15, 2024  
University of Rome Tor Vergata  
Dipartimento di Studi Letterari, Filosofici e Storia dell'Arte



ロベルト・エスポジト



岡田温司



パオロ・ダンジェロ



ジュゼッペ・パテッラ